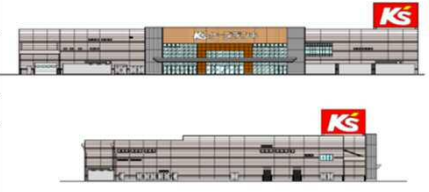


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケーステンキ埼大通り店	階数	地上2F
建設地	桜区栄和3丁目815-2 外16筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定無	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,015 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 0.0	評価の実施日	2018年3月19日
敷地面積	8,392 m <sup>2</sup>	作成者	双葉設計 前原勝子
建築面積	5,788 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月19日
延床面積	11,342 m <sup>2</sup>	確認者	双葉設計 前原勝子



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

① 参照値 100%  
② 建築物の取組み 77%  
③ 上記+②以外の 77%  
④ 上記+ 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 計画建築物の形状を単純な箱型とし室内各室も出来るだけ開口部の無い壁に囲まれた計画とし省エネを心がけました。敷地境界線周りには出来るだけ植栽をし周辺環境に配慮し、建物南側は屋外駐車場とし開放感のある空間を設け、1階屋内駐車場と連続させる事により風通しの良い計画とします。		<b>その他</b> 計画建築物は家電販売店の為、回収した廃棄家電、リサイクル品は1階に専用置場室を設け、指定業者に回収させる仕組みと致します。
<b>Q1 室内環境</b> 計画建築物の形状を単純な箱型とし室内各室も出来るだけ開口部の無い壁に囲まれた計画とし省エネを心がけました。又、2階天井裏に断熱材を100敷き、省エネに配慮しています。	<b>Q2 サービス性能</b> バリアフリー法、埼玉県建築物バリアフリー条例、さいたま市福祉のまちづくり条例に則り店内通路、便所、階段、昇降機、駐車場、店内敷地内誘導通路を整備致します。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> さいたま市みどりの条例則り、敷地境界線りに植栽をし周辺環境に配慮するとともに、屋外駐車場を取り囲むように植栽する事により、店舗利用車両から発生される熱を
<b>LR1 エネルギー</b> 計画建築物の形状を単純な箱型とし室内各室も出来るだけ開口部の無い壁に囲まれた計画とし省エネを心がけました。その為冷暖房効率が上がり、CEC値の成績が良くなりました。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 化学物質排出把握管理促進法対象物質を含有しない建材を使用します。フロン・ハロン含有の消火材、断熱材、冷媒を使用しません。	<b>LR3 敷地外環境</b> 1階屋内駐車場ピロティ、植栽により敷地内日陰形成面積が大きくなります。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される